国際標準 ISO/IEC17025
信頼される試験所に向けて

『ISO/IEC17025』とは、試験所や校正機関が正確な結果を出す技術力があるかどうかを、審査機関が認定する国際規格の1つです。

一般的には、ISO9001：品質マネジメントシステムやISO14001：環境マネジメントシステムなどが有名ですが、ISO17025は試験所認定とも呼ばれ、認定を受けた試験所は、試験成績書へ認定マークを付与して発行することができます（右図）。

現在、製造業をはじめ多くの業界で製品やサービスに対する客観的な証明が求められています。今までは社内検査で良かったものが、第三者の試験成績書が必要とされたり、第三者が発行する試験成績書でも「その結果は本当に適正な値か」「その試験機関の試験技術の精度はどうなのか」と疑念を抱かれることも想定されます。

そこで、試験結果の信ぴょう性や妥当性を判断する基準として、ISO/IEC17025の認定制度があります。

ISO/IEC17025は、試験機関の技術能力・品質を証明するための制度であり、顧客満足の向上にもつながっていきます。

当協会の材料試験室（建設工事材料等の試験を行う部署）は、お客様の製品に公正、公平な立場で精度が高い試験結果を提供できるよう、平成19年にISO/IEC17025の認定を受けました。当初は、コンクリートの圧縮強度試験から始めましたが、その後、お客様からの要望を受け、コンクリート試験や骨材試験などを中心に試験範囲を拡大し、現在では、14の試験項目で認定を受けています。また、2年ごとに外部審査（中間審査・更新審査）を受け、常に試験技術の精度を確保しています。

当協会材料試験室ではISO/IEC17025を運用することにより、公正、中立な試験機関として独立性を維持し、更なる技術力の向上とお客様から信頼される試験所をめざして、今後も試験業務に取り組んでいきたいと考えています。

また、現在、食品検査部門でもISO/IEC17025の認定取得をめざしています。

（材料試験室）

コンクリート圧縮試験（上）平面度測定（右）の様子

認定マーク　（JNLA070246JPは当試験所の認定番号です）

続・一歩先行く衛生管理

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に『認証マーク』を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを行っており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。

⑥ 株式会社マルヒガシ海苔

説得ではなく納得で進める衛生管理
意識の統一で気付きや見直しへ

認証日：平成29年11月13日
所在地：安芸郡海田町畝2丁目11-3
創　業：明治20年11月
話し手：営業部課長　松尾　啓二　様

■業務内容

創業当時からのり加工を行っており、今年で130周年を迎えます。

のりは国産、とりわけ口どけや風味に定評のある有明産の一番のりにこだわって仕入れをしています。味付けをするための調味液も国産の原材料を使用して、味付けのり、ふりかけ、お茶漬けなどさまざまな製品に加工して販売しています。

■認証取得のきっかけと取り組み

社会的に食の安全安心が注目されています。卸している業者様にも、お客様にも弊社の商品を安心して手にしてもらえるよう、取得を考えました。

製造室内を清潔にしておかなければならないという意識は従業員全員が持っていましたが、認証取得をきっかけに衛生管理に対する意識の統一化が図られ動線や清掃方法などについて提案が出るようになり、改善・共有が図られています。

■自ら設定した衛生管理のポイント

認証取得を受けるに際し、これまでの手順を変更したり、新たな機械を導入したりしました。あたりまえに実施してきたことを変更する点に苦労しました。

何のために認証を取得するのか、どうやって機械を使えばいいのか、記録はどう取るかなど、話し合いの場を持ち、従業員を説得するのではなく、納得してもらえるよう力を入れました。

■今後のステップアップ

現在の認証維持・徹底はもちろん、より高度な衛生管理の導入を目標に掲げ、準備を進めていきたいと考えています。

■消費者の皆さまへ

自主衛生認証で自信を持って商品をお勧めできることになりました。食卓で、私たちのこだわりのおいしいのりを楽しんでいただきたいと思います。

（インタビュアー・高橋／記事・馬場田）

公衛協 ア・ラ・モード ㉟ 熊野町

触診モデルで受診勧奨
体験で重要性を訴える

1月21日（日）、熊野町民会館で「第14回筆の都くまの町　健康まつり～みんなでつくろう健康くまの～」が開催されました。この健康まつりで、熊野町公衛協が「がん検診へ行こうよ！キャンペーン事業」を実施し、町内外から参集した600人にがん検診の受診勧奨を行ないました。

ブースでは、環保協や役場子育て・健康推進課から借用した「乳がん触診モデル」と「喫煙と病気パネル」の展示や、広島県が作成しているがん検診受診勧奨チラシなどの配布を行いましました。多くの人に関心を持ってもらおうと、女性だけではなく、積極的に男性や子どもたちにも声をかけ、実際に乳がんのしこりを探してもらって触診や検診の大切さを訴えました。

触診モデルでしこりの感触を確かめる来場者

触診モデルを触った参加者からは、「胸にできたしこりがどんな感触なのかがわからなかったけれど、モデルを触ってよくわかった」「意外としっかり触らないといけないのね」「検診には行っているけれど、自分でもチェックしてみよう」「男性も乳がんになるとは知らなかった」などの声が聞かれ、改めて乳がんや検診に関心を持ってもらうことができました。

熊野町公衛協では、健康づくり事業として「がん検診へ行こうよ！キャンペーン事業」のほか、ウォーキング事業や献血などを行っています。また、今年度からCOOL CHOICE活動にも力を入れ、地球温暖化対策にも取り組んでいます。

これからも幅広いテーマ・年齢層を対象にした事業展開を期待します。

（地域活動支援センター）